

2024年度 夏季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書 (単位認定希望者対象)



子供の遊びをサポートしている様子



プレイルームで子供と遊ぶ様子



ホームステイ先での昼食

1. 参加目的

私がベトナムでボランティア活動をしたと思った理由は2つある。1つは、ボランティア活動を通じて自立心や新しい価値観を身につけたいと思ったからだ。私はこれまで積極的な人間ではなかった。そのため、自分で成長する機会を逃しているのではないかと感じていた。そこで、社会に出る前に今住んでいる環境とは全く違う環境に身を置き、自分が何をすべきかを見つけることで、自分自身を成長させたいと思い、プログラムに参加することを決めた。また、私は以前ベトナムに旅行したことがあり、そこで見たもの、食べたものが気に入った。しかし、今回は前回とは違うベトナムの一面を見るために、観光客としてではなく、ボランティアとしての意識を持って滞在したいと思った。また、他の国のボランティアと一緒に活動することで、異なる価値観や文化を経験し、より広い視野を持てるようになれると思い、この活動に参加するに至った。

2. ボランティア実習内容について

知的障害のある子どもたちのためのデイケアおよびヘルスクエアを行う、Sao Mai Centerにて活動を行った。子供の年齢は3歳から18歳までで、各クラス7～13人の子供が在籍していた。年齢と能力に基づいてクラス分けがなされており、私が活動を行ったクラスは、5～7歳の自閉症を持つ子供たちのクラスだった。月曜日から木曜日まで（金曜は任意）、午前8時30分から11時、午後14時から16時まで活動した。子供たちと一緒に遊ぶこと、脱走の防止、子供たちがぶつかったり、殴り合ったり、自傷行為をしないように子供たちに注意を払うこと、教師と子供の一对一の学習時間の間他の子供たちの様子を見ること、また昼食の配膳と清掃、食べることが苦手な子供の食事の補助をすること、教室の飾りつけが主な仕事内容だった。簡単なベトナム語を覚えて子供たちに接することもあった。

3. プログラムを通して学んだこと

プログラムを通して学んだことは、積極的なコミュニケーションと姿勢だ。現地では英語を使う機会が多く、来た当初は受け身だった。他の日本人ボランティアは積極的に英語を使っていたため、それに触発されて徐々に自発的に英語を使うことができるようになった。最終週にボランティア団体のスタッフと英語で雑談出来て、自分でも前より少し自発的に発言できるようになった実感を持てた。施設では、一つの教室に一人のボランティアが活動を行った。もし同じ教室に日本人ボランティアがいたらおたおたするのみで、どのように行動するか考えることを他人任せにしていたかもしれない。当初は子供たちとどのように距離を縮めるのか分からず苦労した。担任教師ともコミュニケーションをとり、一人一人の名前を覚え、好きな遊びや食べ物などを覚えていった。子供たちはベトナム語を話すことはできないが、観察し、自発的に行動することで仲良くなることができた。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

他国のボランティアと接する機会はあまり多くなかったが、周囲の日本人ボランティアは積極的に自立している人が多かったので、とても良い刺激を受けた。コミュニケーションの姿勢や、休日に予定を立てる際も積極的に新鮮だった。泊めてくれたホストファミリーに、日本人ボランティアみんなでカレーや白玉を作って食べたこともあった。私一人ではこのような行動をとることは無かったと思う。ホストファミリーには、「今まで多くの日本人を泊めてきたけど、料理を作ってくれたのは初めてだ」と言われた。海外ということもあり、当初は慣れないこともあったが、自分が普段接する機会のない人々に触れあうことで、自発的に行動することの大切さを身に染みて感じた。今後はこの経験を糧とし、自らの知見を広めていきたい。